研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-190		20-071	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

What is binge drinking? Insights from a network perspective

ビンジドリンキングとは？ネットワークの視点からみた考察

執筆者

Lannoy S, Baggio S, Heeren A, Dormal V, Maurage P, Billieux J.

掲載誌

Addictive Behaviors 2021 117:106848　DOI:10.1016/j.addbeh.2021.106848

キーワード	PMID
危険な飲酒、ビンジドリンキング、ネットワーク分析、概念化、評価	33581676

要　旨

目的：

ビンジドリンキングとは短期間に大量のアルコールを摂取することを特徴とするアルコールの使用パターンである。危険な行動との関連や長期的な健康障害などが明らかになっているが定義が難しく、既存の研究間の比較や再現実験に支障をきたしている。今回はデータに基づくネットワーク分析を用いて、ビンジドリンキングの主な特徴やアルコール消費量に関連したサブネットワークの存在を明らかにすることを目的とした。

方法：

過剰な飲酒習慣（月に 1 回以上、1 回の飲酒量が 6 単位以上と定義）を持つ大学生 1,455 名（女性 52.4%，平均年齢＝20.79±2.36）を対象とし、オンラインで社会人口学的特性および飲酒に関する項目（アルコール使用障害スクリーニングテスト : AUDID、飲酒スピード、酔う・泥酔する頻度）について調査した。解析には R によるネットワーク分析を用いた。

結果：

中心性分析では、ネットワーク全体で最も影響力のある変数として酩酊状態の頻度が特定された。コミュニティ検出分析では、アルコール使用、酩酊感、機能障害・危害の 3 つの要素に関連するサブネットワークが示された。

結論：

酩酊状態の頻度とブラックアウトの発生は、ビンジドリンキングネットワークの中心となる役割を果たしていた。また今回の分析により、ビンジドリンキングは、(1)アルコール消費量に焦点を当てる定量的な視点よりも、大量飲酒の特徴に焦点を当てたアプローチの方が優れていること。(2)酩酊状態はビンジドリンキングの主要な特徴であり、ブラックアウトはこの主要な結果であること。(3) 1 回の飲酒量が 6 単位以上であることで定義することは不十分であり、酩酊の特徴とアルコール摂取頻度・強度を考慮した定義が必要であることが示された。